

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	音楽療育特化型事業所リズムストーリー		
○保護者評価実施期間	2026年 2月1日		2026年 3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療育プログラムを実施するために必要な広さや環境が整っており、子どもたちが伸び伸びと活動できる場所が確保できている。	個々の発達差が大きく、それぞれの課題は明確であるが、構造化された音楽療育プログラムに取り入れることで、「みんなと一緒に」という安心感の中で社会性を育みながら、個々の課題にも最大限アプローチできる療育が可能となっている。	視覚支援として必要な物に掲示物を絞り、プログラムに集中できる空間づくりをする。傷んだものは早めに処分するなどして安全でわかりやすいシンプルな空間づくりをする。
2	子どもたちの遊び心を十分に生かし構造化して確立された音楽療育プログラムがある。プログラムの中に様々な運動や、表現遊びを取り入れて5領域の活動が網羅できている。	子どもたちとの会話の中で感じるトレンド感も大切に情報を集めアイデアを持ち寄って職員全員で曲選びをしている。事業所で実施している社会性の発達検査の結果から利用者に必要な活動が何か検討して、プログラムの中に取り入れている。子どもたちの成長や興味に合わせて内容を工夫している。	職員が一人一人の様子を観察しやすいように担当制を実施している。利用児の様子や興味を活かしたプログラムになるよう、子ども達の様子を持ち寄り、魅力あるプログラムづくりを継続していく。
3	スタッフの専門性が高く、それぞれの得意を活かして表現できるチームづくりが出来ていること。	音楽療法の手法が発揮されるようそれぞれの分野の有資格者でプログラムを担当して作り上げている。	専門性を発揮した生き生きとした意見を交わし合いながら、職員一人一人の能力を発揮できるチーム作りにつとめている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内プログラムであるので戸外での社会体験のニーズにこたえるのが難しい。	クローズの空間に適したプログラムであり、楽器等も含め集中できる環境が不可欠である。	S-M社会生活能力検査を土台とした面談を行い、ご家庭でしか出来ない事や課題を知らせて、社会性の発達に沿った成長が滞らないように配慮している。室内でも十分に全身運動できる空間があるので様々な運動や遊びが展開できるようプログラムを考案する。
2	聴覚過敏のパニックを起こしてしまった時に音楽を遮断できる場所の確保が難しい。	小集団の音楽遊び活動で、集団の調和が求められるプログラムであり、どの場所においても音楽を感じられることをプラスととらえているが、音がストレスの要因になった時に遮断することが難しい。	情緒面も含めてコンディションの悪い時等、保護者と連絡を取り合い、落ち着いて過ごせる方法を探り、療育室ではない所で過ごして安定をはかるようにしている。イヤマフなど必要に応じて使用できるよう準備していただく。
3	低学年と高学年と下校時間の差があり、興味の差も大きい。	放課後等デイサービスの利用児の学年が高くなり、それぞれの困りごとの個性と本人のニーズが多様化している。プログラムに入ることより宿題をする時間が欲しいなど、音楽プログラム外のフォローを求めている。	登校する気持ちが整わなくてもリズムには行きたいという利用児の気持ちを大切に居場所支援として音楽プログラムに参加しない時間帯も認めている。整った後いつでもプログラムに戻れるよう支援している。おしゃべりと宿題が目的になっているご家庭には適宜面談を設けて問題に向き合うように配慮する。